

生涯学習アンケート結果から見える現状と課題

☆ 計画策定時における課題（まなび人）

課題 1. 学びに関心を持ち、世代に応じた学びができること

本計画における生涯学習とは、あらゆる世代が、あらゆる場で、自ら進んで行う学習活動のことであり、仕事や育児に取り組むための知識や技能の習得、さらには家庭や地域での風習や伝統などの伝承も生涯学習に含まれます。生涯学習は、生涯を通じて行うすべての学びを意味しています。

調査では、①年齢層が下がるほど生涯学習への関心が薄く、身近に感じていない人の割合が高くなっています。また、②「仕事、育児に時間を割いているため、生涯学習ができない」という回答も多くなっています。その時々に必要な知識や技能を習得することにより、生涯学習の理念のもとに学習を積み重ね、相互に関連させることで、より豊かな人間性を育むことが必要です。

また、③生涯学習活動の阻害要因として、「費用がかかる」ことが挙がっています。適切な負担で提供される学習機会や自主的なサークルにとって、経済的負担の少ない運営ができる環境の整備は非常に重要であり、行政の役割は大きいと考えられます。

④地域ごとに整備されている市立住民センターや市立図書館等は、市民ニーズが高く、ソフト面の充実や情報発信機能、交流機能を高めることで、生涯学習の拠点施設としてより効果的に活用できると考えられます。

なお、市民にとって、防災や健康づくり・スポーツ等の関心の高いテーマについては、生涯学習に接したことのない多くの市民をひきつける可能性を持っているため、それに沿った企画をすることや多様なニーズへの配慮が必要です。

☆後期計画アンケート結果

- ① 前回調査と比較して、「生涯学習に関心がある(かなりある・ややある)」と回答した割合は、わずかなではあるが増加している。年代別でみると 60 歳代・70 歳代においては、高くなっているが、50 歳代以下では、下がっている。(問1)
- ② 前回調査と比較して、「仕事、育児に時間を割いているため、生涯学習ができない」と回答した割合は、全体的に増加している。30 歳代から 60 歳代は、4割から5割の人がそう答えている。「きっかけがつかめない」と回答した割合も 40 歳代から 60 歳代を中心に高くなっている。(問8)
- ③ 前回調査と比較して、生涯学習活動を行うにあたっては、「費用がかかる」と答えた割合が 17.3%から 23.6%に増加している。(問7)
- ④ 市立住民センターと図書館は、他の生涯学習施設と比較して身近な施設として定着し、利用率が高く、市民の満足度も高い。(問 23・24・25・26)

☆アンケート結果に基づく現状の成果と課題

生涯学習に関心がある割合が、わずかなではあるが増加していること、また、生涯学習に取り組んでいる人は、自らの目的に沿った学習に取り組んでおり、取り組むことによる自分自身の変化にも気づいていることから、生涯学習に取り組む「まなび人」の成果が表れている。しかしながら、仕事、育児に時間を割いているため、学習できない人やきっかけがつかめないという人も多く、あらゆる世代において、学習に取り組みやすい内容や仕組みづくりが必要である。

☆ 計画策定時における課題（まなび力）

課題２．学びが継続し発展するための支援と担い手を育成すること（まなび力）

①学習成果の社会への還元は重要な課題ですが、多くは個人的なものにとどまっています。学習成果を生かすきっかけも自発的である割合が高く、生涯学習で学んだことを、地域や社会での有効活用につなげるための仕組みが必要です。

そのためには、②「学習内容を共有する機会や場の提供」、「専門的な学習内容の充実」といった環境整備が求められるとともに、学習活動を継続するための支援が必要です。一方で、獲得した知識や技術の社会的活用が意図されていないとしても、学習活動によって人生の充実や健康の維持・増進がもたらされている面もあり、生涯学習の無視できない効用となっています。

また、③「市民ニーズを把握した内容の講座を増やす」ことが、「丹波市の生涯学習を盛んにするために大切である」と回答した人が、最も多くっており、この講座の企画・運営には、地域の実情に対する理解と、生涯学習支援の専門的な力量が求められます。行政内部や市民との協働により、生涯学習推進の担い手を育成することが不可欠だと考えられます。

☆後期計画アンケート結果

- ① 前回調査と同様に、生涯学習を通じて身についた知識・技能や経験の生かし方については、「自分の人生がより豊かになっている」、「自分の健康を維持・増進している」という回答が多い。「地域や社会での活動に生かしている」割合は、28.8%で前回調査よりもわずかに上昇している。（問 12）
- ② 前回調査と同様に、生涯学習活動を通じて身についた知識・技能や経験を仕事や地域活動に生かすためには、「学習内容を共有する機会や場の提供」、「活動を展開する機会を提供してくれる仕組み」という回答が多くなっている。（問 15）
- ③ 前回調査と同様に、丹波市の生涯学習を盛んにするためには、市民ニーズを把握した内容の講座を増やすという回答が最も多い。（問 28）

☆アンケート結果に基づく現状の成果と課題

生涯学習を通じて身についた知識・技能や経験の生かし方は、引き続き、個人的なものにとどまっている傾向にあるが、地域や社会での活動に生かしている人も少なくない。

しかしながら、身についた知識・技能や経験を仕事や地域活動に生かす方法として、「学習内容を共有する機会や場の提供」や「活動を展開する機会を提供してくれる仕組み」という回答が多いことから、多様かつ特色ある教育資源を有するNPO等との連携・協働を推進し、学びと活動をつなげていく必要がある。

☆ 計画策定時における課題（まなび里）

課題３．学びで新たなまちの魅力を創造すること（まなび里）

意識調査からうかがえる本市の地域活動は、自治協議会や自治会の活動、地域の助け合いやまちづくりに関わる活動など、地縁的なつながりを中心としたものが主となっており、50 歳代、60 歳代の参加が中心となっています。一方で、①市民の意識する課題は多岐にわたっており、今は参加していない層についても、地域活動への参加意欲は決して低くありません。住みやすいまちづくりをめざす上では、こうした潜在的な課題への意識や参加意欲に働きかけ、地域への活動へと導く仕掛けが必要であり、生涯学習はそのためにも不可欠なものです。

また、地縁的な活動だけでなく、福祉・子育て・スポーツなどといった目的意識に即した学習機会の提供や指導者の養成、新たな団体の設立や育成、起業の支援までも視野に入れた学習機会の提供などが必要と考えられます。既に活動している自主サークルや自らの楽しみを中心とした学習活動に対して、地域や社会の課題解決に取り組むきっかけを提供することも課題となっています。

☆後期計画アンケート結果

- ① 市民が意識している地域の課題は、調査結果から「要介護高齢者の生活支援」、「住民同士の助け合いや地域交流」、「子育て支援の充実」、「まちの防災・防犯や住みやすさ」の順に多くなっている。（問 17）

地域や社会の課題を解決する活動は、「自治会や自治協議会などの活動」、「住民同士の助け合いや地域交流に関わる活動」、「地域のまちづくり活動」、「環境や景観の保全に関わる活動」の順に多くなっている。（問 19）

☆アンケート結果に基づく現状の成果と課題

市民が意識している地域の課題は、「要介護高齢者の生活支援」、「住民同士の助け合いや地域交流」、「子育て支援の充実」など、市民生活に直結するものであり、将来への不安も感じ取れる。そういった課題を解決する方法として、「自治会や自治協議会などの活動」、「住民同士の助け合いや地域交流」という回答が多いことから、自分たちの活動によって、様々な課題を解決しようとする意識は高いと言える。

地域課題を解決する活動を活発にするためには、地域活動を行う人材や組織、仕組みづくりが必要であり、行政や市民活動団体など多様な主体との連携・協働が必要である。